detect.ipynb の使い方

学習時

1,同じレベルのフォルダ階層にimagesフォルダを作る

2,Imagesフォルダの中にtrainフォルダvalidationフォルダを作る

3,trainフォルダ、validationフォルダ内にそれぞれ学習させたいものの名前のフォルダを作る(trainフォルダ内とvalidationフォルダ内に作るフォルダは全く同じフォルダ名にする)

4,3で作ったフォルダにそれぞれの画像を入れる

5,ipynbファイルをjupyterで開き上から二つ目のボックスのn\_categoriseの部分をtrainフォルダ (validationフォルダ)に作ったフォルダ数に書き換える

6,jupyter のスクリプトを上から順番に実行

検証時

1, 同じレベルのフォルダ階層にvgg16\_veg\_file.json とvgg16\_veg\_file.h5が存在することを確認する

2,Imagesフォルダ内にdiplayフォルダを作る検証用の画像を入れる

3,jupyter のスクリプトを上から順番に実行

Scrape.pyの使い方

ターミナルで

python scrape.py -s 集めたいものの名前(アルファベット) -n 集める写真の枚数

これだけでできると思います

recipe3フォルダについて

画像をアップロードするとそれがどの食材であるかを当てるウェブアプリ

簡易版のため当てられる食材はトマト、じゃがいも、肉、人参、玉ねぎのみ

また学習時間が短く精度は低いです

使い方

1,mediaフォルダ内にjsonファイルとh5ファイルを入れる

2, python manage.py runserver

3, http://127.0.0.1:8000/myapp/ と検索 ?

4,出てきた画面で画像を選択し診断を押す

5,すると診断結果が画面上部に現れる、また診断結果はsave\_dataフォルダに保存される